
3 , 7 4 ~ 僕等のゲーム ~

来墮むく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

3 / 74 僕等のゲーム

【Nコード】

N 3 6 1 4 P

【作者名】

来堕むく

【あらすじ】

あなたには 大切な 人が いますか？

あなたには 愛する 人が いますか？

あなたには わかりあえる 人が いますか？

あなたは その人のために

どこまで 堕ちて いますか？

「彼等はただの人間だ。
だからこそ彼らは理想を追い求める。
それがどれだけ愚かなことだろうと。
ただただ大切な人のために。」

スタートボタンを押してくださいー（前書き）

今回はほのぼのです^^;

次回から一変します

スタートボタンを押してください――

部屋の中にはたくさんの人形と花。部屋は鮮やかな色で包まれていて、夢見る女の子の部屋のようだ。そこに彼・平宮空介は居た。ひらみやくうすけここは空介の従妹である結ゆいの部屋。空介と結の家はとなりにあり、二人は、よく双方の家にこっそり出入りしていた。こっそりだからといってやましいことは何にもなく、ただ純粹に「親には秘密」というスリルを楽しんでいた。なんせ二人はまだ10歳の「こども」だったのだから。

今日も空介は結の部屋に忍びこんだ。しかし、こっそり忍び込んだせいでお目当ての結はいなく、ひとり番犬のように結の帰りを待っているのだった。

空介は結のことが好きだ。でも、この部屋はどうしても好きになれなかった。ぬいぐるみだらけで目がちかちかするような配色のあからさまな女の子部屋は、年の割に大人びた空介には辛い場所だった。

いつか、この部屋を好きになれるのかな…

空介は鮮やかなピンクから逃げるように目をつむった。次目を開いたときに見えるのはきつと結の笑顔だ。

ゲームはまだ始まらない。

誰かがstartボタンを押すまでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3614p/>

3, 74 ~ 僕等のゲーム ~

2010年12月7日21時18分発行